

ふるさと「都跡」の宝

明治34年4月3日「建標式」が執り行われる！

令和3年(2021)3月発行

ふるさと「都跡」を語ろう会

ふるさと「都跡」の宝

明治34年(1901)4月3日「建標式」が執り行われる！

今月4月3日は、平城宮跡第二次大極殿址に、「平城宮大極殿舊址(きゅうし)」と書かれた高さ約3.6mの標木を建てた「建標式」から丁度120年目になります。

平城宮跡保存運動で功績のあった棚田嘉十郎氏の本格的な活動より前の、地元都跡村有志による保存運動の最初期のイベントです。

当時の大極殿跡は、田畑に囲まれて案内板もない状況でした。そこに、目印となる標木を建てました。

最近見つかった当時の記録「平城宮大極殿舊址建標録」によると、建標有志総代が岡島彦三、戸尾善右衛門、大沢管二、松田利三郎、飯田岩次郎の5名、他に30名が受付・接待・祝酒折詰・休憩掛けを分担。田畑の真ん中でしたので、通路の開拓や会場整備に6日間延べ115人が従事したとあります。

又、約300名に招待状を送付、内約190名が出席。当時の新聞記事によれば、柵外の参加者を含め総勢700人以上が集まったようです。

招待者には折詰・菓子・酒等。また賓客には佐紀の9家が休憩所を提供したようです。式は水木要太郎氏作成の順序書により春日大社が担当。

都跡村、全村あげての大掛かりなイベントだったようです。(岡嶋) 以上 記事より転載



「平城宮大極殿舊址(きゅうし) 建標録」



第二次大極殿に建つ「建標木」

標木が周囲からよく見え、大極殿跡が一目でわかります。

写真：奈良県名勝写真帖(明治43(1910)年発行)

《大極殿跡についての補足説明》

現在大極殿が復元されている所は、710年に平城京遷都された時の場所で第一次大極殿跡と呼ばれています。その後都は恭仁宮、難波宮、紫香楽宮と移り、745年に平城京に再び戻っています。その時、先の大極殿の東側に新設されたのが第二次大極殿跡になります。

長らく第二次大極殿跡のみが大極殿跡とされてきましたが、昭和30年代の発掘調査で大極殿跡が2か所あることがわかってきたようです。